

道祖神を崇めながらの里山歩きもまた楽し。

北アルプスの反対側、つまり安曇野や白馬・大町から東には展望を楽しむ里山が続いている。かのウェストンたちも馬車に乗って東から信州に入った。村人たちは、キノコや山菜採りに出かける山でもある。といっても、なだらかな山ではなく、結構アップダウンがあり、天気がよければ場所によっては南の御岳・乗鞍から遠くは白山、そして北の白馬岳までが間近に見渡せる。

先日、6名で女性会員が企画したキノコうどん山行。今回はきのこ狩りではなく、会員のご主人が採集してきたキノコとうどんを煮て温まる。1000m前後の低山なので、まだ紅葉は充分楽しめた。

大町労山では、年間企画でほぼ決まっている山行がいくつかある。10月の小谷の風吹大池への山行もその一つで、途中で天然なめ茸などのキノコを採集しながら池の畔で鍋をいただく。今年は途中から雨になって、収穫はたくさんあったのに鍋はできず、下山して温泉のあとキノコを分け合った。

年末には、赤岳への日帰り山行も恒例だし、最近では正月明けに富士山を展望する山や『青春18切符』で行く山も定着してきた。冬の赤岳はメンバーはある程度限られるが、富士山を展望する山は、車を分けて足の弱い人は観光も含めて参加できるので、明るい正月を楽しむ山行になっている。『青春18切符』で行く山は選定が難しいが、山行時間より往復の列車内の時間の方が長いので、どちらかといえば、もっぱら飲み会山行である。先日の例会で、この二つの年明け山行もほぼ確定できた。

最近、上州や奥秩父の山に行く機会が多い。10月末には前夜泊で甲武信岳を周回し、11月初めには単独で妙義の最高峰である谷急山（やきゅうさん）に登った。マニアックな山やさんは妙義の魅力はご存じだろうが、どうしても槍穂・劔などに比べて一般的ではない。しかし、なかなかどうして、たかが1000m前後の山ではあるが、奇岩の連続で何本もの鎖とロープのルートが多い。ガイド本では「上級」である。最高に面白いのは、「丁須ちようすの頭」だ。キノコの傘に登るイメージで、ある程度、岩の訓練をした人なら簡易ハーネスとスリング・カラビナで可能だが、ガイドたちは、お客さんにハーネスを着けさせる。有名な荒船山をはじめ、上州では毎年遭難があるのだ。

後立山の嶺峰は、本格的な冬の装いになってきた。家も周りもいつもより早く降雪があったが、この冬はどうだろうか。宿泊業者やスキー関係者は、毎年のことながらやきもきした毎日を送り、冬の準備に余念がない。

マイカーもスタッドレスタイヤに切り替えた。雪よいつでも来い、準備は整っているぞ。



右：新雪に覆われた爺・鹿島槍ヶ岳  
左：一昨年に登った「丁須（ちようす）の頭」

